

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年4月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691200036
法人名	有限会社 稲満会
事業所名	グループホーム うらら
所在地	鹿児島県霧島市国分下井2988番地 (電話) 0995-46-1778
自己評価作成日	平成31年3月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成19年に開設しあつという間に13年に入り、周りは田んぼだったのがたくさん住宅が増えて見晴らしが悪くなった所もあるが目の前に桜島が見え後ろには城山 霧島の山々、テクノパーク、天気の良い日は高隅山の奥よりロケットの打ち上げも見える。
国道10号線はあるが静かで車の出入りもあまりなく静かで安全な場所である。天井を高くしているので部屋の中も空間がありゆったりとある。玄関の桜島のカーペットが心を和ませてくれる。
またデイの浴場は露天風呂をイメージした浴室は気持ちいいと言われ、食事全部手作り、美味しいと言って下さっている。明るいのも施設の特権である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は併設でデイサービスセンターや隣接している有料老人ホームとの交流が普段から行われ、災害時の相互協力関係もできている。
- ・自治会に加入し役員を担って、回覧板等で情報を共有している。地域行事にも積極的に参加する一方、事業所の行事には多くの地域の人々の参加がある。総会や班会などに事業所を開放し、認知症についての講師依頼を受けるなど、日常的に交流している。
- ・定期的な受診と24時間対応の医療連携体制が築かれ、緊急時の対応などに適切な医療が受けられるよう支援している。
- ・管理者は職員のレベルアップのため、各種研修受講や資格取得を奨励している。
- ・看護の有資格者が多数おり、主治医との連携が密に行われ、看取り介護も行っている。職員は、利用者が張り合いのある日々を過ごせるように、残存能力を見極めながら支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念が玄関に書いて貼られており、常に職員が見る事が出来るようにしてある。</p>	<p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、玄関や業所内に掲示している。申し送り時にケアの振り返りをしており、ケアに係る情報・問題は申し送りノートで共有し理念の実践に繋げている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>行事への参加の呼びかけ部落の会合などで、デイルームを使って頂く。散歩などでの部落の人達と話している。</p>	<p>自治会に加入し、地域行事に積極的に参加している。事業所の行事にも多くの地域の人々の参加があり、デイルームで地域の会合を実施したり、認知症についての講演依頼を受ける等、地域との交流を積極的に行っている。ボランティアや保育園児との交流や中学生・看護学生の実習等を受け入れており、近隣からの野菜の差し入れもある。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>地区の運動会、球技大会、奉仕作業など参加して入所さん達の状態を見て頂いたり、また地区の入所さんもらっしやるので声掛けなどして頂いてる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>市役所、包括、地区公民館長、自治会長、老人クラブ会長、民生委員、地区消防団、家族会会長、入所者代表、家族とたくさんの方が集まって頂き会の事にテーマを決めて勉強会をしている。</p>	<p>定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット・外部評価の結果報告等を行い、意見交換を活発に行っている。助言を受け、水害対策として救命胴衣を各居室に準備したり、地震災害等の避難訓練に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>2か月に1回、市町村担当者、地域の方々と運営推進会議を開き、実情や取り組みを詳しく伝え、意見を聞きながら協力関係を築けている。</p>	<p>市担当者とは運営推進会議時の意見交換や、窓口に出向いたり、電話で事業所の実情や取り組みを伝え連携を深めている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>夜に、身体拘束の勉強会を行ったりして、職員全員が理解できるように取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を3ヶ月に1回、勉強会は必要時に事例検討を実施し、言葉による拘束も含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。主治医の指示で薬物を用いる際は、家族の了解を得て実施し、経過記録を残している。昼間の玄関の施錠はせず、職員の日配りと連携で制限のない生活を支援しており、地域による見守りも受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行ったり、オープンな場所での介護などに取り組み防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が研修を受けそれを職員に伝え活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	個別にお会いし、契約書を読み上げ説明し必ず印鑑をもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に2回の家族会などで、健康面、日常の生活などを伝えている。また、個人的にも相談したりされたりしている。	利用者からは介護相談員との面談や日常の会話で意見等を聞いている。家族からは面談・電話・運営推進会議・家族会で意見等を聞いている。家族会では家族だけで話し合う時間を設けている。要望や意見について職員で話し合い対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>全員での話し合いが難しい時には、代表取締役で各部署から集まり運営についての意見を聞いている。</p>	<p>1日に3回の申し送り時や必要時の話し合いで意見等を聞いている。事故防止に関するケアの統一の提案が多く出され、ケアに反映させている。個別相談は、日常的に施設長が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員みんなが色々とアイデアを出して頂き、働きやすいように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>夜に勉強会を行い職員のスキルアップに努めたり1人で行う勤務を2人で行いトレーニングをしてもらったりしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会などに積極的に参加し勉強会、講演会などで学んだ事を職員に伝えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より今までの生活ぶり、好き嫌いなど不安に思っている事を尋ねて入所者様が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを聞き本人様、家族が安心出来て生活できるよう職員みんなで努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設にまずは慣れて頂くために声掛け行動などに注意して見守りをしている。急がないようにする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事への手伝いなど話しながら一緒にする仕事をお願いする事でここで私を必要とされている事を分かって頂く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族の話を聞いたり、相談にのったり要望を聞くなど、きちんと親身になって対応できている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊などは本人、家族の要望に答え、自由にして頂いている。	家族や知人の面会が多く、居室でお茶を出している。地元出身者が多いため、散歩時に声かけをされることもある。家族と墓参りや買い物・外食等に出かけたり、電話や手紙等の支援を行うことで、関係の継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの座る位置、食事の時の席など利用者様が過ごしやすいように考えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人様のかかりつけ医や家族にお会いした際、様子を聞いたりしてその後のフォローに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべく特技を探し本人の嫌がる事はせず好きな事、出来る事をして頂くようにしている。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。日常の会話や歌・食べ物等から昔を思い出し、したいこと等を話されることがある。困難な場合は、アセスメントや家族の情報を参考に、利用者の視点に立って本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	部屋には今まで使っておられた物を持ってきて頂き、ここが自分の部屋である事を分かって頂くようにしている。また、デイからの入所の方もおられます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日健康チェックしながら状態を把握しながらなるべく早く異変に気付くように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会の折などに家族の方と話し合っている。また、入所者様とも話しするときなどに、したい事、してほしい事など会話の中から探している。	面会時等に把握した家族の要望等を基に、職員で検討して介護計画を作成している。モニタリングは担当者が毎月実施し、3ヶ月毎に全体で検討、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細かく書き職員間で申し送り、情報共有できていると思う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出、外泊、病院受診など一人ひとりに合わせたサービスに取り組んでいると思う。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山、海に囲まれている土地で、自然と共存し生活できていると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に病院受診、往診に関しては一人ひとり、そして家族によりそい個別に対応できていると思う。	かかりつけ医は、本人・家族の希望を大切にしている。週2回の協力医療機関の往診や家族及び職員の同行受診も実施しており、結果は家族に報告している。24時間医療連携及び事業所の看護職員が適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日看護師はいるので何かあればすぐ報告し管理者、看護師、介護職と話し合いをし往診ノートなどに記入する。2週間に1回の往診時に報告している。急を要するときは主治医に連絡し指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーなどに詳しく書き利用者様の事を伝えて注意して頂く。面会になるべく行くようにしてその都度、状態を聞き早く帰ってこれるように話しをする。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今まで数人の看取り介護をしてきましたが、先生・家族・職員と共有しながら進めていく。いつでも対応出来るようにしている。家族の方へもなるべく最期を看取る事が出来るように準備して泊まって頂いたりしている。	契約時に指針に基づいて説明し、同意書を貰っている。身体状況の変化等により、段階的に意向を確認し、家族の希望があれば医師・家族・職員が協力して看取り介護に当たっており、看取りの事例もある。職員の勉強会は、事例に基づきその都度実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間帯は連絡をもらい、状態を報告を受け指示し看護師を呼び初期対応できるよう訓練はしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防火訓練、避難訓練は地域の消防団のみなさんと一緒に取り組むなどして勉強させてもらっている。</p>	<p>消防署立会い及び消防団の協力のもと、年2回、昼夜想定での避難訓練を実施している。防火設備は年2回点検している。スプリンクラーや緊急通報装置も整備されている。地域住民には有線放送で協力依頼しており、地域との協力体制もできている。水・米・味噌・缶詰・調味料などの備蓄もあり、各居室に救命胴衣を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれに合った言葉遣い対応に努めています。	一人ひとりのプライドや自尊心を尊重した対応に努めている。入浴や排泄介助時のさりげない声かけに気をつけ、本人がしたくないことや嫌なことは無理強いしないようにしている。個人記録等の取扱いでは、名前に変えて番号等を使用しプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは、本人に確認し出来るだけ利用者の希望を叶えるように一緒に考えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	たまにはできない事もあるので理由を説明し待つて頂く事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝、今日はどれを着ましょうか？と相談しながらやっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに好みも違うので、なるべくその方にあったように工夫してやっています。	管理栄養士と職員で、利用者の好み等に配慮しながら献立を作成し、差し入れの旬の野菜等を用いて調理している。利用者と職員と一緒にテーブルやお盆拭き・下ごしらえ・保存食作りをしている。毎月の合同誕生会のおもてなし食や季節の行事食等、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。口腔ケアも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕と1日1食1食において、細かく記録し食べた量、水分量など分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり歯ブラシや歯磨き粉など自分に合ったものを使ってもらい、丁寧にケアしていると思う。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄へ向けてポータブルトイレでの訓練など取り入れ、細かい声掛けなどを「行い出来るだけオムツを使用しない様に気を付けている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、必要に応じての声かけや見守り、確認することでトイレでの排泄を基本に支援している。リハビリパンツや尿取りパットを利用しているが、尿意が戻って失禁が減少し、尿取りパット不要となった事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を心掛け、牛乳、バナナヨーグルトなど積極的に摂取し朝の体操なども全員で行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	1日おきのお風呂なので、その方の健康状態を見ながらまた最初でないといけない人など希望を聞きながらやっている。	隔日の入浴のうち、週1回は併設のデイサービスの浴室での入浴で温泉気分を楽しんでいる。順番の希望等を考慮して入浴を楽しめるよう工夫したり、体調によっては清拭を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて安心して気持ちよく眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どうしても服用しなければならない薬を優先し話し合いながら服用して頂き確認を必ずするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの特徴、好みなどを考えてレク・散歩などして頂いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>家族が行かれての外出が主で皆で出かける事は季節毎の花見・ドライブ・部落の運動会などです。</p>	<p>天候の良い時は、周辺の公園に出かけたり、散歩やウッドデッキで日光浴をしている。計画を立てて、季節毎の花見や地域行事への参加・霧島神宮の六月灯・ドライブ等で車椅子対応車を利用して出かけている。家族と外食や買い物等で外出する利用者もあり、できるだけ出かけられるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの方が持ち金は持っておられず家族の管理である。外出したい時にはほしいものがあったら買ったりもする。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は家族と話されるも手紙は字も書けなくて難しい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や置物を飾ったりテーブルには一輪挿しなど、心の和む空間があります。常に掃除を行い清潔な生活空間を心掛けています。鍵はかけていません。	玄関は広く、ホールは天井が高く畳のスペースやウッドデッキで開放感があり清潔である。壁には季節感を大事にした飾りや作品・花などが活けてある。対面キッチンのそばにテーブルが置かれ、職員との距離感が近く安心して過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに自分の席、くつろぐ場所を確保されている。また自室にて新聞を読まれたり本をみたりされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋と分かって頂けるように、大切にされてた物などの持ち込みをして頂いています。面会時などは、自室にての対応し一緒にお茶してもらってます。	居室はベッド・物入れがあり、掃き出し窓からベランダに出られる。救命胴衣も準備されている。本人の好みや必要等によって使い慣れたオルガンやダンス・テーブル・椅子・洋服掛け等を置いたり、写真等を飾って本人が落ち着いて過ごせるような部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ローカも広くしるし、トイレもゆっくり入れる様にしています。なるべく自立した生活を送れる様に工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない